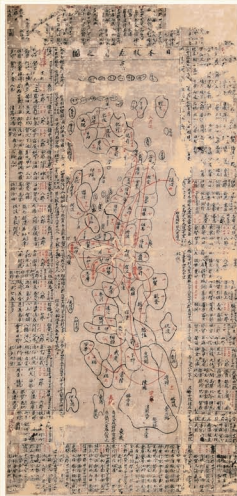


## 描かれた 現存最古の 「日本の形」

1. 「日本扶桑国図」  
(室町時代)



### 行基図とは

最初に描かれた日本の地図の形。「団子」のような諸国が連なって本州・四国・九州が描かれ、鎌倉時代頃から江戸時代初めまで数百年間使われていた。展示資料は、その中でも日本列島の形がきちんと残っている地図としては最古の可能性があり、初公開の新発見資料。

### 守屋壽古地図コレクションについて

広島県福山市出身の守屋壽氏が30年以上かけて収集した、国内外の古地図を核とする歴史資料コレクションで、総点数は1,000点を超える。個人の古地図コレクションでは質・量ともに国内最大。平成26年の初公開以降も新たな資料が集積され、その内容は充実度を大きく増している。

# 伊能図は一日にしてならず!

数々の珠玉の資料を新たに加えた国内最高の古地図コレクションが、伊能忠敬に至る日本の地図づくり400年を語る。

200年後



2. 「日本図」  
(17世紀前半)

島原の乱がきっかけとなり、寛永15年(1638)に幕府が作った日本地図の写し。

100年後

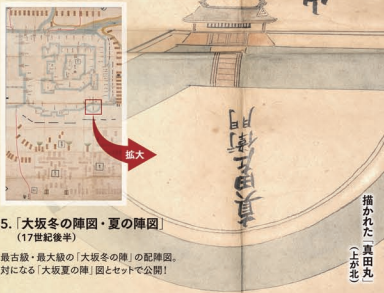


3. 「松浦静山旧蔵日本図(享保の日本図)」  
(18世紀前半)

8代將軍徳川吉宗の命で作成された日本地図で、測量の結果が地図中に描かれている。平戸藩主松浦静山が入手し所蔵していた。

### 日本初の全国測量による 日本地図

## 3m×4mの巨大な安芸国絵図



5. 「大坂冬の陣図・夏の陣図」  
(17世紀後半)

最古級・最大級の「大坂冬の陣」の配陣図。対なる「大坂夏の陣」図とセットで公開!

描かれた  
真田丸  
(上が北)



6. 「安芸国絵図」  
(江戸時代)

正保年間(1640年代)に広島藩が幕府に提出するために作成した安芸国図の写し。4例のみ現存する。公開は今回が初めて。当時の宮島の姿も詳しく描かれている。

100年後



4. 「文化元年  
東日本伊能小図」  
(文化4年(1807)享)

2  
3

を超える  
初公開  
資料!

### 伊能図とは (沿海地図)

伊能忠敬が第1次～第4次測量調査の成果をまとめて、文化元年(1804)に作成した東日本部分の日本地図。この地図が幕府に高く評価され、伊能忠敬は日本全体の地図づくりを命じられた。展示資料は初公開の新発見資料で、文化4年(1807)に越後高田藩の学者が写したもの。幕府の原本は焼失している。